

滋賀県地域情報化推進会議 平成29年度第1回ICT利活用検討部会概要

日時 平成29年5月23日(火)13:30～15:00
場所 コラボしが21 3階 大会議室
出席者 別紙のとおり

1 座長あいさつ（要旨）

社内で話題になっていることを紹介したい。昨年度楽天トラベルのサイクリング人気旅行先ランキングで滋賀県は2位であった。1位と3位はしまなみ海道を挟む愛媛県と広島県。滋賀の中でも、守山、近江八幡、湖東地域がランクインしていると聞く。ビワイチという名前は知事も外向きに発信している名前であるし、そのことについて、一生懸命取り組んでいただける方がいるところは盛り上がる。

昨年度の部会においてもビワイチ関係で大いにデータ活用（道路情報、観光情報）につながるといいという意見があった。今後のWG活動に期待したい。

もう一つ、横浜市が官民データ活用推進基本条例を制定。これは他の地方自治体に先駆けてできたものである。また、5月30日に改正個人情報保護法が施行されるなか、データの匿名化についても、今後の部会活動において無視できない。今後、利用しやすいデータ加工法が出てきて、データ利活用分野も進むと予想される。当部会においても、新しいデータ加工法等を見つけようという意気込みをもって頑張っていきたい。

2 議題

（1）部会運営規定の改正について

事務局より資料1に基づいて説明を行う。

運営委員会での意見を受けての改正である。改正内容としては、部会の議事を公開することが主眼にある。基本議事は公開とし、公開できないものは非公開にすることもできる。

非公開とする場合、非公開情報を除いた概要版を作成し、公開する。

公開場所としては、滋賀県地域情報化推進会議のウェブサイトに掲載することを考えている。また、このことについては、後日、運営委員会に諮り、承認を得る旨説明した。

○部会員

公開に賛成する。他の審議会等では個人名を出しているもの、出していないもの双方あるが、どう運用するのか。また、要約がすぎると議事内容が不明になり、かといってあまり具体すぎると個人が特定される。その中間あたりで運用できないか。

○部会員

詳細はともかく、この会議はオープンデータがテーマである。やはりこういった会議では公開が原則かと思う。非公開情報には、プロテクトがかかるので問題はない。理論的には公開にしないと会議の意味が失われる。

○座長

では、本議案を承認することよろしいか。

○部会員

〈了承〉

○座長

それでは、今回から議事録を公開する。

○事務局

自由闊達な議論を阻害しないよう、発言者は部会員として記載し、個人名を出さないような運用で進めたい。

○部会員

〈了承〉

(2) ICT利活用検討部会設置要領の改正について

事務局より資料2および参考資料2に基づいて説明を行う。

より機動的な活動を実現し、かつ、事業化の種を専門的に研究するためにWGを設置できるよう要領の改正について運営委員会の承認を得ていること、その上で、IoT企画WG・データ利活用WGの設置について、昨年度末の運営委員会の了承を得ていること。

上記の説明の後、今回の改正点を説明した。

今回の改正は、株式会社ドコモCS関西滋賀支店、京都電子計算株式会社が新たに部会に参加の意向を示されたことによるもの。本件についても後日運営委員会に諮る。

○座長

今回の改正はメンバーの追加ということでよいか。

○部会員

そのとおり。

○座長

では、本議案を承認することよろしいか。

○部会員

〈了承〉

(3) 活動報告・ワーキンググループの設置

事務局より資料3に基づき部会の機能および各WGの機能や構成員について説明を行う。

◆データ利活用WGについて

滋賀地域共創データコンソシアムの検討も話題の一つとしたい。

オープンデータに関する取組や利活用について検討を行う。

主査は大津市木下様にお願いし、滋賀大学とも連携しながら進めていきたい。

◆IoT企画WGについて

滋賀県IoT推進ラボについて協議し、その方向性について検討を行う。

主査は滋賀県立大学地域ひと・モノ・未来情報研究センターのセンター長の酒井教授にお願いしたい。

◆部会活動の報告について

各WGの主査には、年度最後の部会で活動報告をお願いする。

◆滋賀県地域情報化推進会議概要説明資料について（参考資料1）

概要がわかるPR資料が必要との運営委員の意見を受けて作成した。本部会が非常に重要な役割を担っていることが表現されている。

○部会員

〈特に意見なし〉

○座長

今後のポイントはWGの活動となるのではないと思う。それでは、各主査から御挨拶願う。

○データ利活用WG主査

オープンデータやビッグデータについて、以前関西情報センター（大阪）で検討した。

しかし、議論がなかなかかみ合わない。これは、自治体は住民を意識し、行政の透明性について目が向きがちであるが、企業側はデータを使って分析することや、シミュレーションが目的であり、ずれがあるため、最初の議論で並行線である。

最終的には、広域レベルでのデータの整合性がほしい。例えば、大津と草津で違う、他の市町ならまた違うでは問題。やはり本音では、オープンデータを使うのは少々難しいというところ。

今後オープンデータの在り方について、議論しないといけない。皆様、よろしくお願いいたします。

○IoT企画WG主査

IoT推進ラボは、国の認定を受けて進めていく形になっている。ターゲットとしては工場の自動化、見守りなどでIoTの活用が進んでいないところや、農業などが考えられる。

IoTと一言と言っても、いろいろと考え方があると思う。

是非、IoT企画WGの中で、データ利活用WGの方からも意見をいただきながら、滋賀の中でネットワークとして推進するためにはどうすればよいか検討したい。

モノづくり振興課からも補足をお願いしたい。

○モノづくり振興課

ネットワーク作りから始め、企業の課題、行政課題を、IoTを使って解決したい。

今後、セミナー等を通じたマッチングや、補助金の活用を促進していきたい。

○座長

今年度はWGが目玉の活動となる。部会の基礎であるオープンデータを引き継いでくれるので大いに期待したい。

IoT推進ラボに多くの企業等が参画していける土壌はあるのか。

○モノづくり振興課

多くの方に参加していただけるように環境を整えたい。

○座長

今回はフレームワークの検討が主である。主査の話を受けて何かあるか。

○部会員

〈特に意見なし〉

○座長

この方針で今年度進めるがよろしいか。

○部会員

〈了承〉

(4) その他

事務局から下記についてお知らせした。

- ・ 滋賀県地域情報化推進会議総会の日程
- ・ 総会後の講演会の講師について
- ・ ICT利活用プレゼンテーション会テーマ募集について

以上